

大切なのは日頃の備え！ みんなの力で災害被害を 小さくしよう！

地震、台風、豪雨、豪雪、火災…。災害は思わぬ時にやってきます。被害を少しでも小さくするためには、対策を誰かに任せるのではなく、国民一人ひとりが日頃から防災活動に参加することが大切です。ひとりでも多くの人を救うために今、何ができるのか？さまざまな地域で行われている防災への取り組みをレポートします。

case

1

保育園

消防署や地域と連携して 子どもの生命を助けたい！！

午前9時半、のどかな保育園に警報が鳴り響いた。保育士の先導で園児たちが次々と園庭に出てくる。佐賀県にある海童保育園で行われた防災訓練の1シーンだ。「小さい子どもには、こうした防災訓練だけではなく、災害時にどうすればいいのか、日頃から繰り返し教えていく必要があります」とは園長の真崎久代さん。今回の訓練で、すべての園児が口に手を当てながら慌てることなく避難できたのも日頃の演習の成果だ。

保育園ではこうした防災活動を、地元の鹿島消防署と協力しながら行っている。「今回は消防署の指導で、避難だけではなく、初期消火にも力を入れて訓練を行いました」。

「走らない」「話さない」「押さない」「戻らない」。4つの約束を守りながら子どもたちは次々と園庭に逃げていく。



消防車の到着を待っている間に火災は広がっていく。いざという時のために初期消火の訓練も重要だ。